

Japan  
Handball  
Association



社会人  
 学生  
 高専  
 高体連  
 中体連  
 小学生  
 県協会

全国大会  
 ブロック大会  
 都道府県大会  
 地区大会

男子  
 女子

試合番号 **B-男7**

年月日 2017年8月5日(土)  
 大会名 平成29年度 全国高等学校総合体育大会 ハンドボール選手権大会

公 式 記 録 用 紙

A		広島山陽学園山陽高等学校						県立法隆寺国際高等学校						B			
都道府県		福島県		市町村		福島市		会場		あづま総合体育館				回戦		1回戦	
前半		A	B	最終結果		A	B	第1延長		A	B	第2延長		A	B	7mλ0- ゴフスト	
		10	10	20 18													
7m得点/総数		A		チームタイムアウト			チームタイムアウト			B		7m得点/総数					
		4/5		1	2 後半	3	1	2 後半	3	0/0							
				2901	2358	2919	1019	1538	2636								

No.	広島山陽学園山陽高等学校	G	W	2'	2'	D	DR	No.	県立法隆寺国際高等学校	G	W	2'	2'	D	DR
1	広上 永遠							1	平田 廉						
2	山下 由聖							2 C	緒方 稜人	3					
3 C	久村 孝太	1		1				3	奥川 魁仁	3					
4	山下 凌矢	5						4	瀧本 椎之	2					
5	塚田 隼丞							5	飯田 海	2					
6	大野 凌							6	佐野 颯太	4					
7	福原 隼佑	5	1	1				7	扇 海人	3					
8	河野 想大	5						8	荻 晃大						
9	岡野 陽介	2						9	松江 哲志	1	1				
10	有松 治人	2		1	1			10	生田 悠馬						
11	塩田 英太郎		1					11	竹谷 歩						
12	岡向 天空							12	尾崎 智規						
13	駒井 翔太							14	笠原 功平						
16	森野 亮							15	新田 龍ノ介		1				
役員A	佐々木 皇介							役員A	長野 泰裕						
役員B	日垣 翔太							役員B	賀須井 英嗣						
役員C	引尻 優介							役員C	石丸 世蓮						
役員D								役員D							

A	佐々木 皇介	チーム役員A署名	長野 泰裕	B
---	--------	----------	-------	---

レフェリー	白旗 成	柳谷 諒	白旗 成	柳谷 諒
TD	比留間 康	石田 智宏	比留間 康	石田 智宏
JHAオフィシャル				

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR)特記事項に報告書として内容を記入

赤は直接入力→

試合 番号	7	男子 [ ① ]
----------	---	-------------

平成29年度全国高等学校総合体育大会ハンドボール競技大会  
高松宮記念杯 第68回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

## 試合結果・戦評報告書

競技日	8月5日 (土)	会場	福島県営あづま総合体育館(Bコート)		
種別	高校	性別	男子	回戦	1回戦
Aチーム名			Bチーム名		
広島山陽学園山陽高等学校			県立法隆寺国際高等学校		
広島県			奈良県		
得点合計	小計	period	小計	得点合計	
20	10	前半	10	18	
	10	後半	8		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7mTC			
戦評		記載者氏名	新方 浩二		
<p>山陽がサイドシュートや速攻をおりませながら、法隆寺国際のオフENSEをディフェンスでのハードワークとGKの好守で封じ込め粘り強く戦い勝利をつかんだ。</p> <p>試合オープニングから、山陽は久村のミドルシュートや山下のサイドシュートで得点すると、法隆寺国際も速攻で奥川がミドルシュートで応戦する。前半10分19秒に3点差をつけられ法隆寺国際がタイムアウトを取る。その後、法隆寺国際はディフェンスを修正し速攻で得点をあげる等1点差まで詰め寄るが、山陽も積極的な6-0DFで相手にリズムをつかませない。前半23分同点になったところから、山陽Gk広上が5本連続の好セーブで相手の追撃を許さず前半を同点で折り返す。後半6分、法隆寺国際が山下のカットインで逆転すると、山陽に緊張感がはしり堅守速攻の精度が格段に上がるとともに流れを取り戻す。その後も一進一退の攻防が続くが最後までディフェンスでのハードワークを続けた山陽が接戦をものにした。</p> <p>法隆寺国際は、ミドルシュートを中心に對抗したが、後半相手のギアチェンジに対応できなかった時間帯が最後までひびいた。</p>					
送信日時	月 日 ( )	:	送信者氏名		

